

4 丸井千年先生と車



5 伊予鉄バス

昭和19年に伊予鉄バスが久万に営業所を開設し、久万と小田の間に運行が始まりました。運行開始に併せて、バスを停車する車庫がふじや旅館の横に建てられました。その後、小田と松山を結ぶ参川線が開設されるなど、次々と路線延長されましたが、自家用車の普及により平成23年に廃止されました。

7 土居書店

書店を開業する前までは小田町村の村長さんの家でした。大きな大黒柱や凝った造作の欄間などぜひ見たいな作りになっています。2階にも広い座敷があり、他の民家では見られない大きく立派な建物です。

丸井先生は小田に開業し、へき地医療の向上に尽力した医師です。山間部へも往診に行き、広く住民から慕われていました。そのとき使われたのが「丸井先生の車」。自動車が珍しい時代に専属の運転手があり、多くの人の印象に残っています。「いのちの神様」と呼ばれた丸井先生は、旧小田町の名誉町民第1号で、その胸像は役場跡に残されています。

6 伊予銀の変遷とタイサンボク

伊予銀行小田支店の前身は内子銀行小田支店で、跡地と同じ場所に大正13年頃が開業しました。その後、場所も変えながら予州銀行小田支店、伊豫合同銀行小田支店、伊予銀行小田支店と変遷しました。内子銀行の建築当時に植栽されたといわれるタイサンボクは、今も大切に管理され、初夏になると白い花を咲かせ続けています。



1 林業(二宮製材、京河製材)

小田地域は古くから木材の産地として知られ、江戸時代には小田深山から良材が搬出されていました。戦後はさらに林業が発展し、製材所も増加しました。旧小田中央商店街付近には、東側に二宮、西側に京河という大きな製材所がありました。町の中には産業で財を成し、小田の貴重な良材で建てた家が多く残っています。当時は当たり前のように地元産材が使われていました。それらは小田の人々の誇りであり、今も山や森、巨樹・巨木は心のよりどころとして大切にされています。



2 小田市

12月24日を迎えると、町村の商店街通りいっばいに露店が並び、お正月の準備品を求めて大勢の人が訪れます。歩けないほどの賑わいを見せていたそうです。昭和30年頃がピークで、その後は流通網が発展したこともあり徐々に客足が減少。昭和の終わりに途絶えてしまいました。



小田のまち いまむかし散歩

昭和二五年(一九五〇年)ごろ

むかし

art venture ehime fes 2025



いまむかし散歩

小田のまち



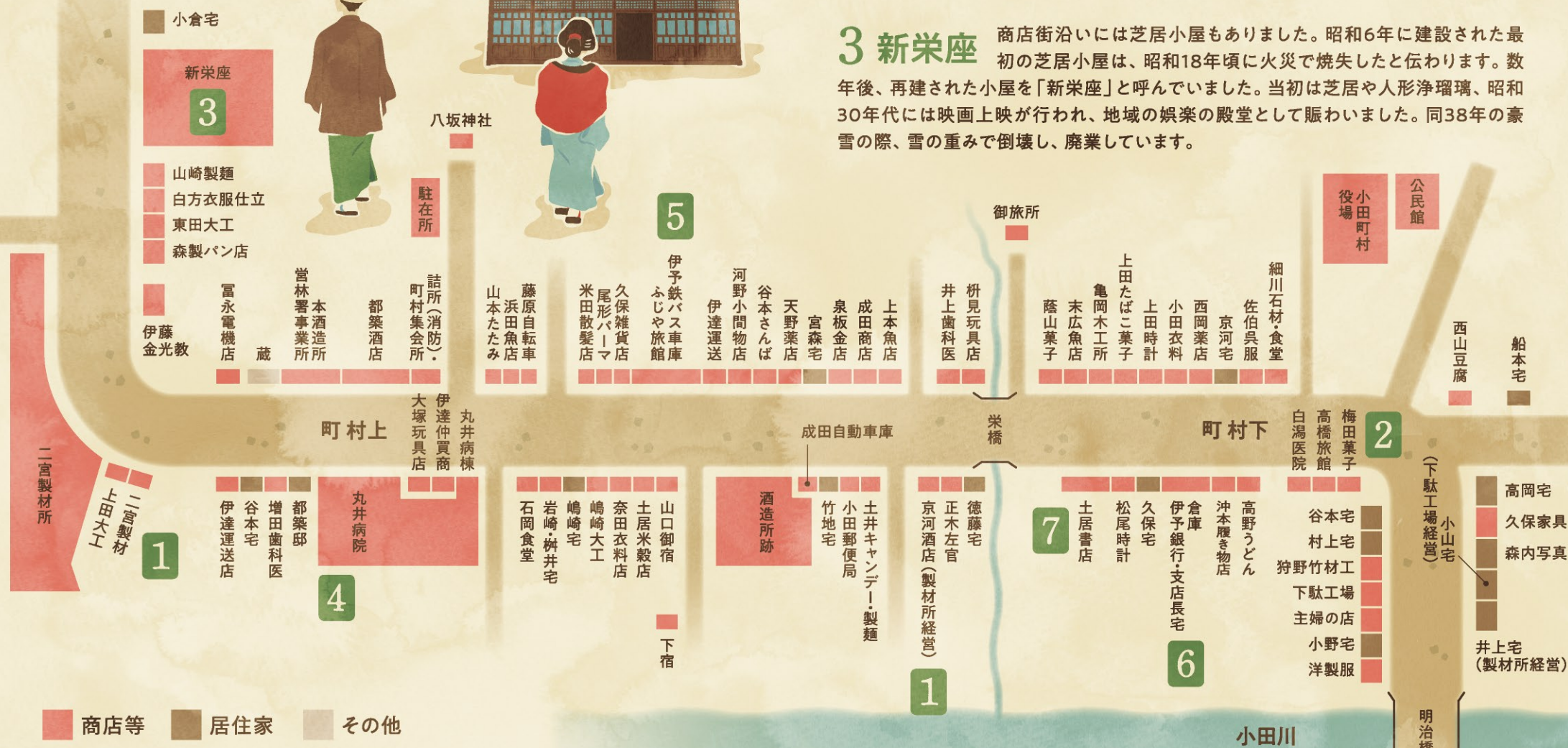
おだいちず

10.18^{SAT} → 11.3^{MON}
9:00~16:00

around 1950 and 2025



「art venture ehime」は、アート(文化芸術)を介して人と人、人と地域をつなぎ、そこから生まれる新たな価値や関係を社会に広げ、愛媛の未来を創造する、アートコミュニケーションプロジェクトです。少子高齢化に伴う人口減少が進むなか、福祉、スポーツ、観光やまちづくりなどさまざまな領域にアート(文化芸術)を掛け合わせ、地域が抱える課題に愛媛県と東京藝術大学と県民が連携して取り組みます。



内子町役場町並・地域振興課
TEL 0893(44)2118 8:30~17:15(※土日祝を除く)
MAIL machinami-g@town.uchiko.ehime.jp
※土日祝のお問い合わせは内子町役場小田支所へ TEL 0892(52)3111

